

論文誌の質的量的向上を願って

ヒューマンインタフェース学会 論文誌担当理事 黒川 隆夫

ヒューマンインタフェース学会はシンポジウム、研究会、専門研究会など、会員が研究成果を発表し、あるいは研究交流を行う場を提供していますが、特に完成度の高い研究論文、技術報告を掲載し、会員に役立てて頂くために論文誌を年間4回発行しています。論文誌は、現在のところヒューマンインタフェース学会誌と合冊になっているために地味な存在ですが、会員の、ひいては学会の研究活動の質的レベルを表すものとして非常に重要な使命を担っています。

論文誌の編集には論文誌編集委員会が当たっていますが、実際に論文誌を作っているのは会員の皆様方だと言っても過言ではありません。論文誌の特徴は、掲載される論文数、論文の質、論文で扱われている領域に現れますが、現在はまだ満足すべきところには到達していません。

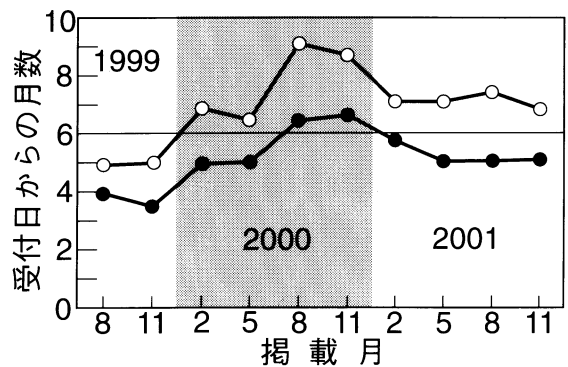
まず、論文を投稿される場合、数ある学会の論文誌のうちからヒューマンインタフェース学会論文誌をどのくらいの頻度で選ばれるでしょうか。査読の早さや厳しさなどを検討してと言う方もおられるでしょうが、論文は他学会に投稿することに決めているという会員も少なくないようです。しかし本学会にはヒューマンインタフェースの専門的研究者や技術者のほとんどが加入されていることを考えれば、本学会の論文誌に投稿して頂く意義は十分に大きいと言えます。

論文の質も皆様の意識により左右されます。ヒューマンインタフェース関係の論文は書きにくいとよく言われますが、新規性や有効性を十分に含め、論点を明確にして頂くことで質を高めることが可能です。非常に多くの方が、「ヒューマンインタフェースの論文はシステム開発であれ、新しい概念の提案であれ、何らかの評価結果を含んでいる必要がある」と言われています。論文執筆に際して考慮すべき点と言えるでしょう。さらに本学会には論文賞制度があり、優れた論文を毎年3編表彰しています。これらの論文の候補は正会員からの推薦によって選ばれますし、論文誌のレベルを上げることにもつながりますので、ご協力をお願い致します。

研究分野としてのヒューマンインタフェースは非常に広い領域をカバーしています。しかし論文誌に投稿される論文の内容はそれに比較すると会員の関心分野全体に及んでいないとは言えません。論文誌は特定のテーマに限定した特集論文と領域を問わない一般論文を受け入れています。今のところ会員の眼は特集号のテーマに偏りがちで、一般論文の投稿が非常に少ないのが残念です。ヒューマンインタフェースに関連する論文であればいつでも投稿できると考えてくださるようお願いしたいと存じます。また、ヒューマンインタフェースシンポジウムでの優れた発表には座長に投稿推薦をお願いしていますし、新たに研究会の発表にも同様の推薦制度が取り入れられようとしています。皆様に投稿のお奨めがあった場合には積極的にレスポンスして頂ければ幸いです。

会員の皆様の最大の関心事は査読制度だと思われます。編集委員会では査読期間を短縮するために投稿論文ごとの担当委員制を取っており、査読の遅れに対処したり、判定案を作成したりして頂いています。下図は論文の受付から採録決定および実際の掲載までに要した平均の期間を示したもので、一時は半年を越えたこともありますが、最近では平均5ヶ月程度で採録決定に至っています。採録率は特集号のテーマにより異なりますが、55～65%です。

論文誌編集委員会は、会誌からの論文誌の分割独立を始め、電子投稿の推進、Webでの論文公開などの課題を抱えています。論文誌をレベルアップするための、また特集号テーマその他に対してのご意見、ご希望がございましたら論文誌編集委員会 (paper@his.gr.jp) にお寄せください。最後にこの場を借りまして、査読をご担当頂いた方々、長期に渡ってご協力頂いております論文誌編集委員と特集号編集委員の各位にお礼を申し上げます。



投稿受付から採録決定(●)、掲載(○)までに要する期間